

笠間市社会福祉協議会

北川根支部だより

第148号



発行日 令和4年10月20日
 発行 笠間市社協北川根支部
 編集 北川根支部広報委員会
 印刷 (有)シーエス

75歳以上を高齢者とする・・・

18～64歳で65歳以上を支える場合



18～74歳で75歳以上を支える場合



(出所) 経済産業省「新しい社会保障改革に関する勉強会」資料より

◆2025年問題◆

「2025年問題」とは、戦後の第一次ベビーブームの1947～1949年に生まれたいわゆる「団塊世代」が75歳以上の後期高齢者になる2025年以降、日本は更なる「超高齢社会」を迎え、これに伴って生じる諸問題の総称です。

団塊世代の人口は約800万人、厚生労働省の試算では団塊世代が75歳になると2020年時点で約18

「75歳現役世代」の到来か

副支部長 水田 諭

71万人であった後期高齢者人口が約2180万人に膨れ上がると見込まれています。

このため、医療や介護、年金をはじめとする社会保障費の増大により国や自治体の財政を圧迫するなど深刻な問題が発生することが予想されます。更に2040年には第二次ベビーブームの1971～1974年生まれの「団塊ジュニア世代」が65歳以上となることで高齢化率が35%を超えて、「3人に1人が65歳以上の高齢者」となる「2040年問題」も控えています。

◆騎馬戦型から肩車型へ◆

「1人の高齢者を何人の現役世代で支えるか？」しばしば語られる話題ですが、2065年には18～64歳の現役世代1・3人で1人の65歳以上の高齢者を支える「肩車型」の構図になると予想されています。もし仮に高齢者の定義を75歳以上と改めるならば、高齢者一人に対し支える人数は、高年齢世代（18～74歳）は2065年時点で2・4人に増え、現在の「騎馬戦型」に近い構図になります。

当面の行事

新型コロナの関係で、中止することもあります。

- ① 北川根地区を知る研修会
(2022年10月予定→中止します)
- ② 合同茶話会
(2022年11月予定)
- ③ 北川根支部研修交流会
(2023年1月18日)

政府は近年「働き方改革」の中で高齢者の就労や社会参画を促していますが、経済産業省の審議会においても「65歳以上の継続雇用年齢の引き上げに向けた環境整備を進める」との意見集約がなされています。

2020年3月に「高齢者雇用安定法」が改正され、2021年4月以降企業に70歳までの就業機会確保の努力義務が課されました。また、2022年4月以降、これまで70歳が上限であった年金の受給繰り下げが任意で75歳まで選択できるようになりました。

このように、高齢でも積極的に働くことを前提とした制度の整備が着々と進められ、「75歳現役世代の到来」はもはや既定路線となりつつあるようです。



写真1

をろまでびはコし活て顔活 ス
着う活き中一口ま動のを動地タ
けか動な止変ナし、訪知す域ト
て？をいとしウた青問つこ暮で
のし停状な、イ。パ活てこらし
訪ば止況る会ルシト動もとら
問らしにな合スかで、らがすた
をくて陥どや感しの通お重人。
再悩しり、教染程巡学う要々
開んまま思育拡な回時とと顔
だためせ証入たあうわ不しだつしう研大くなの、聞顔を
私。て理明りびりこれ審まのてたよ修にしど児名き、合
のまい解書のに、とて者たまいこにたい、ら見をまわ
力だまをを身写そ多しとがスのの活び社新開守持ずせ
不まし求見分真の々ま思、クだま動た会型始りつはて

コロナ禍での活動

民生委員・児童委員 横木 守



写真2

願活動員れ些下提が 田
い動をとば細げ示続まの
致を通しとななしくだ橋
し続して思こがなとし近
ま行域まで？らいらで
す。政のすも、まく撮
と訪。気活時すは影
今の問民軽動にがマ
後つ活生にしは、ス
とな動委相てカ身ク
もぎ、員談いメ分姿の
宜役見・しきラ証です
しと守児てまを明の
くしり童戴すぶ書活
おて活委け。らを動



的生川え初キのは
でし沿込冬ンのため
素、いにグの真
とにだかで毎撮
て川朝けす。朝の
でも霧はて、ウ
幻が涸、秋
想発沼冷、康

が木だぐはてさま分にかはか と な委足
確がいにときるしもつし危ら通の私い員、
保伐た地思たよ色ない険行学パち方が努
さ採よ主いらう。々が一「っ児イも何力
れさうの行ケに通なっ等「て童プ民多を不
まれ、との方政ガあ学視た、通見守り生いし足
した見教改相す、のかいと色学人として委員よある
（通週善談の枯両らうとお行看り活動は、感の
（写真1）のし間交した恐れ枝にる話政板「めた頃、皆さ
い）はしをとがながう伺訴の向えき交、ま
通両てろ、の落い改が差以、す。政
学側いすでち被り自善お点前。政
路のたす



旭ヶ丘団地集会所で行っています

地域の健康をめざして

旭ヶ丘団地シルリハ体操指導士

吉井 一志

▼人生100年時代▲

最期は必ず訪れる。それをどの様な状態で迎えるか？シルリハ体操は、人の尊厳を守り健康寿命を延ばし、寝たきり期間を短くするのが目的です。日常生活に支障のない体力を維持する誰でも無理なく出来る体操です。

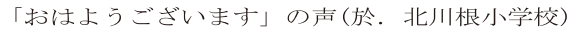
北川根地域最初のシルリハ体操教室を旭ヶ丘団地集会所で立ち上げました。その9日後に東日本大震災が起きまし

た。「こう云う時こそ」の声で休まず続け11年半。この間、運営に参加者に移行し教室名をPPK38としました。参加者の元気な笑顔に接する度にこの体操が自分の「生き甲斐」になっているのを強く感じます。その他、2か所も開設されました。

※シルリハ体操（シルバリーハビリ体操の略）
※PPK38（ピンピンコロリみなハッピーの意）



開催日にはのぼりを立てて



小中一貫教育
あいさつ運動

A group of approximately 25 students and teachers are posing for a group photo on a paved area in front of a building with a red roof. The students are wearing face masks. On the left, several students in white shirts and dark trousers are making 'V' hand gestures. In the center, a group of female students in dark school uniforms (skirts and sweaters) are standing. To the right, students are wearing casual clothing like t-shirts and shorts. The background shows a multi-story building and some greenery.

大会は湯崎地区幹事の方々の協力でスムーズに運営され、和多屋建設工業株式会社福田公一様からは立派なメロンの参加賞、社会福祉協議会北川根支部からたくさんの補助金を頂き、3年ぶりに実施された大会は、親睦・交流を深める思い出に残る大会となりました。

（湯崎地区代表幹事 柴田 寶）

わが地域

20

「鈴明神」(二所神社)

宍戸から住吉を通り、湯崎に入る県道(大洗友部線)が東に大きく曲がる角に「鈴明神」があります。1403・応永10年に、宍戸氏により創建され、現在は熊野神社を合わせた「二所神社」と呼ばれています。方面には、「湯崎城」が宍戸城の東南6・貞和2年には、「教住寺」が宍戸安芸守朝重(朝里・朝家・安芸・朝重の祖)により創建されました。朝重の供養塔が、教住寺脇の住吉共同墓地にあります。芸守持久が「鈴明神」を修築したと伝えられています。

1481・文明13年には、水戸城を本拠とする江戸氏が常陸南部への勢力拡大を図り、涸沼川南岸の小幡(茨城町)を攻めました。小幡城の小幡氏(小田一族)は、宇都宮氏系同族の宍戸氏や笠間氏、大掾(だじよう)氏に援軍を要請し、宍戸持久率いる三千余騎が湯崎に集結し、小幡原(茨城町)での激戦の末、江戸氏を押し戻したとされます。住吉の生活や心の拠り所となり、城館が激動の時代にあつてどの



宍戸朝重の供養碑(右端)
[住吉共同墓地]

鈴明神→



ような働きをしたか：など様々に思いを馳せると興味が尽きないものがあります。

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で、「八田知家」が登場しました。知家(小田氏の祖)は、頼朝の有力な御家人で、最初の常陸守護に任じられました。

「宍戸氏」は、知家の四男宍戸四郎家政から始まり、この地域をはじめ各地で活躍します。(枝川良雄)



女性部研修

8月25日

常陸那珂港区(ひたちなか市)

菅谷様より那珂港開発の成り立ちと、開発から30年経ち、現在港区の役割は、①物流②人流③産業④生活⑤防災に分類されて行われている等を見た。ライドを使って細かく説明していた。

8月25日(木)北川根支部女性部の視察研修を行いました。

コロナ禍で3年ぶりの実施、乗車の際は消毒を必ず行うこと、車内ではなるべく会話を控える等、事務局からの注意事項を守っての研修でした。

まず、高速道路に乗り、常陸那珂港区の視察です。国土交通省の



同施設内火力発電所内見学はコロナ禍のため出来ず、外周4kmを車内から見学。(株)ジェラの野上様より火力発電所の役割と現在の供給先等の説明をいただきました。

その後はゆつくり昼食、コーヒーをいただき、お魚市場でお土産を買いました。帰路の車中では支部長持参の「友部神社例祭」のビデオを見るなど充実した一日でした。

(水庭 ちさい)

編集後記

大。収まるよう収まらず、繰返す。感染拡大。ワクチン接種が進み、行動制限も無くなりつつある。体制が逼迫し、感染症上の取り扱

いも焦点になりつつある。(藤森)

二年半以上になつた新型コロナウイルスの感染拡大